

I 文脈：土台の「御霊に満たされなさい」があり、「賛美しなさい」があり、「神に感謝しなさい」があり、本日の「キリストを恐れて、互いに従い合いなさい」がある。つまり御霊に満たされる時、つまり、まず神に、神の恵みに満たされる時、賛美が生まれ、感謝が生まれ、互いに従い合う謙遜が生まれる。

また、「キリストを恐れて、互いに従い合いなさい」が土台となって、22 節から妻と夫との関係（22－33）、子どもと親の関係（6：1－4）、奴隷と主人の関係（6：5－9）がある。教会の人間関係、夫婦、親子、主人と仕える人の関係が祝福される為には、まず、御霊（神と神の恵み、みことば）に満たされ、主への賛美、神への感謝、キリストを恐れ尊んで、互いに従い合う心をいただく必要があるのです。この順序が大切です。神との関係の満たしから、人との関係の祝福が生まれます。

## II 「キリストを恐れて」

1. 本日の節も、「互いに従いなさい」の前に、キリストとの関係「キリストを恐れて」が先にある。互いに従わなければと、人間的な力でやろうとする前に、「キリスト」は、私たちの為に、どうされたかを見つめ、深く主を知り続けることが大切です。自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。人としての性質をもって現れ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死（私たちの罪の為）にまでも従われました」（ピリピ2：6－8）。「夕食の席から立ち上がって、上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。それから、たらいに水を入れ、弟子たちの足を洗って、腰にまとっておられる手ぬぐいで、ふきはじめられた」（ヨハネ13：4，5）。私たちを愛し、驚くべきへりくだりをもって仕える者となられ、十字架にまでかかり、救いを成就し、真実な愛を示して下さった主キリストを心から賛美し、心から感謝します。

2. 「キリストを恐れて」直訳：「キリストの恐れの中に」。「恐れ」原語：恐れ、畏敬（神・キリストに対する）、尊敬（人に対する）。キリストへの恐れとは、すべての歴史を、すべての人を支配しておれる偉大なキリストへの恐れ敬う心、キリストを失望させる事への恐れ、キリストを悲しませるのではないかという恐れ、私達を心から愛してご自身を犠牲にすることも辞さないほどに愛して下さったキリストへの畏怖。本当に、かたじけない、畏れ多い愛を主に感謝します。

III 「互いに従い合いなさい」。「従いなさい」の原語：「下に」と「位置づける」の合成語。つまり、従うとは「相手より下に自分を置くこと」。へりくだり仕える。キリストが私たちの為にへりくだられたように。互いに主から謙遜をいただいて、仕え合う時、盲従ではない従い方が出来る。

1. 恐れ敬うべき真の支配者、かしらは、キリストのみである事を認め、私達は、人を支配しようとしてはならない。神以外の人に支配されてもいけない。教会の人々、夫、妻、親、子、隣人を支配してはいけない、支配されてもいけない。この世には、教会のある人が支配している教会、かしらである主以外の人に支配されている教会、夫が支配している家庭、妻が支配している家庭、父親か母親が支配している家庭、子どもが支配している家庭、ある人間が支配している社会がある。その支配は、愛と信頼ではなく、恐怖で縛られている。人格を重んずる関係ではない。神が与えられる判断の「はい」と「いいえ」が言えない関係である。主を正しく恐れられない支配者は、威圧的で、自己主張が強く、聞く耳がなく、配慮、思いやりに欠ける。支配者とは、怒り易く、短気、威圧的で、自分と違う考えに我慢出来ず相手の意見を言わせない。そのようにならない為に心に蓄えたい御言葉→「人はだれでも、聞くのに早く（謙遜に人の意見を聴く）、語るのに遅く（自分の意見だけを主張しない。良く聞いた後、自分の意見も謙遜に述べる）、怒るのに遅く（怒り、短気で相手を威圧、支配せず）ありなさい」ヤコブ1：19

「異邦人の支配者たちは、人々に対して横柄に振る舞い、偉い人たちは人々の上に権力をふるっています。あなたがたの間では…皆に仕える者になりなさい」マタイ20：25－26。

2. 御霊が、私たちの心の目を開かれると、真の自分の真の姿、欠点、罪深さ、自分の意見がいつも正しいわけではない事が見えて、支配的ではなく、互いに謙遜になり互いに従い（互いに語り、互いに聴く）仕え合う者に変えられる。御霊が与えて下さる正しい自己認識＝先行するキリストの恵みがなければ、自分は、全く望みがない者であり、ひどい罪人であり、とっくに滅んで当然の者である。この事実が分かると、自分を誇るのを止める。御霊により、自分の真の姿を知らされる時、誇る者から謙遜な者に変えられ、相互関係の諸問題は、解決に向かう。「いったいだれが、あなたをすぐれた者と認めるのですか。あなたには、何か、もらったものでないものがあるのですか。もしもらったのなら、なぜ、もらっていないかのように誇るのですか」Iコリント4：7。すべて神からいただいた神からの賜物である。もし、優れた頭脳、音楽、美術、スポーツ、物作りの技術、語る能力、教える能力、聴く能力、書く能力、片付ける能力、人を支える能力等が与えられているなら、それらを誇ってはならない。むしろ、すべての与え主の神に感謝したい！私達は、すべては神の賜物と知る時、誇るのを止める。そのように謙遜な者に私達を変えるのは、御霊なる神のみ。互いの違いを認め合い、尊敬し合い、仕え合いつつ、教会を、家庭を、人間関係を築き上げて行く。愛の反対は高慢と支配。主の愛は私達を仕える者に変える。

3. 「知識は人を高ぶらせ、愛は人の徳を建てます。人がもし、何かを知っていると思ったら、その人は、まだ知らなければならないほどのことも知ってはいないのです」Iコリント8：1，2。御霊は、この事に気付かせて下さる。「たとい私が…賜物を持っており、…あらゆる知識に通じ、…ていても、愛がないなら、何の値打ちもありません」Iコリント13：2。

「隣人をさばくあなたは、いったい何者ですか」ヤコブ4：12。「さばいてはなりません。さばかれないためです。あなたがたがさばくとおりに、あなたがたもさばかれ、あなたがたが量るとおりに、あなたがたも量られるからです」マタイ7：1，2。私達が、高ぶり、ある人を下に見、さばくなら、私たちの上におられる神が、私達を正しくさばかれることを忘れてはならない。

4. 御霊により謙遜に変えられる時、私達は、人の意見を聞き、学ぶようになる。支配もせず支配もされない。忍耐を持ち、人の立場を理解し、耳を傾ける。共に苦しむ備えのある人へ。相手の意見を良く聞き、自分の考えも謙遜に伝え（人を支配しないだけでなく、人からも支配されない）、共に主のみこころに近づいて行く。「御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容（長く苦しむ）、親切、善意、誠実、柔和、自制です」ガラテヤ5：22，23。正直な「はい」と「いいえ」を聞き合い、語り合い、成長する。

IV 常に祈りたい。教会の中で、家庭の中で、隣人との関係の中で。自分の意見だけに固執しないように。反対する人々にも、忍耐して耳を傾けるように。自分の意見も謙遜と聖なる勇気をもって示すことができるように。支配されないように、神から勇気をいただいて「いいえ」を真実に言える時、相手の支配は弱まる。「いいえ」を祈りつつ言わない人に支配者の力は増々向けられる。他の人々にも話す機会を与え、その意見を述べさせることが出来るように、自分の意見も謙遜と正直さをもって述べる事が出来るように。お互いに、「意見」を述べるのであって、相手の「人格」を攻撃する事がないように。あら捜しをしないように。言葉じりを捕えて人を非難しないように。進んで聞き合い、寛容であり、出来る限り、人々と共に進めるように。敵対的で、失礼な態度を取らないように。頑固にならないように。互いに神に近づいて行けるように祈りましょう。「謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに忍び合い、平和の絆で結ばれて、御霊による一致を熱心に保ちなさい」エペソ4：2，3